

AE 減水剤・遅延形（I種）

フローリック RG

フローリック RG は JIS A 6204（コンクリート用化学混和剤）AE 減水剤遅延形（I種）に適合する AE 減水剤です。

フローリック RG を使用すると凝結遅延効果により、暑中におけるコンクリートの性状を改善します。また、オキシカルボン酸塩の湿潤、浸透、分散作用によるセメント分散と安定した空気連行作用により、コンクリートのワーカビリティを確保しつつ、単位水量を低減し、より高い強度発現および凍結融解抵抗性・水密性の向上、中性化の抑制等、耐久性の向上に効果的に寄与します。

性状

主成分	オキシカルボン酸塩
外観	褐色液体
塩化物イオン (Cl ⁻) 量	0.02%*
アルカリ量	0.97%*
密度 (g/cm ³)	1.02 ~ 1.06

(*分析値例)

特長

- 分散・空気連行作用により、単位水量を低減でき、コンクリートのワーカビリティを非常に良好にします。
- 材料分離を抑制し、ブリーディングの少ない密実なコンクリートをつくれます。
- 暑中コンクリートのコールドジョイント防止に有効です。
- 長時間の運搬を要する生コンクリートなどのスランプ低下を少なくできます。
- マスコンクリートなどにおいて凝結時間を適度に遅延させ、初期硬化速度をおさえます。
- 凍結融解抵抗性、水密性の向上、中性化の抑制等、耐久性の向上に大きく寄与します。
- コンクリート中の鉄筋、鋼材等の発錆の原因となる塩化物を含みません。

使用方法

- フローリック RG の標準使用量はセメント質量に対し、1.2wt%ですが、使用目的に応じて 1.0 ~ 2.0wt% の範囲でご使用下さい。
- フローリック RG は単位水量の一部として計算して下さい。
- 連行空気量が少ない場合には、当社の AE 助剤をご使用下さい。
AE 助剤の使用量は、当社担当者にご相談下さい。

使用上の注意

- 使用量は所定標準量になるように管理してご使用下さい。
過剰に使用されますと空気量が過大となり、コンクリートの強度低下を起こします。またフローリック RG を標準使用量の 3 倍以上使用しますと凝結時間が相当遅れますので注意下さい。
- 冬期には凍結にご注意ください。

荷姿

タンクローリ

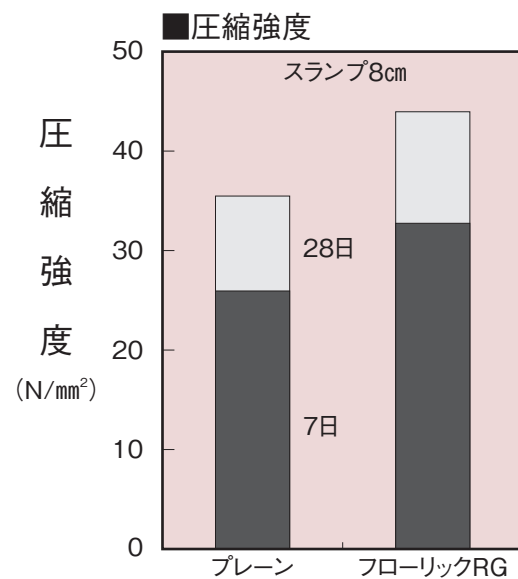
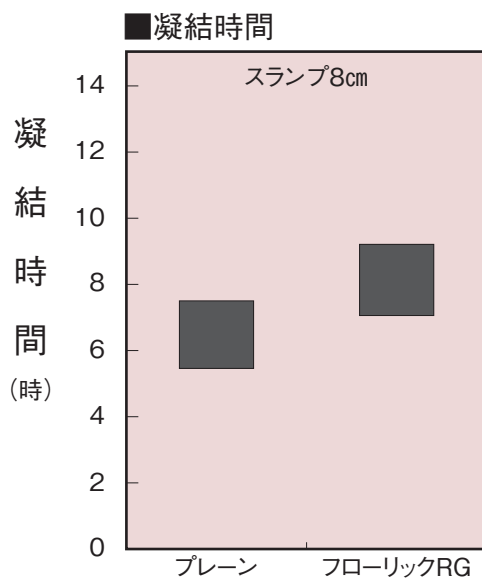
JIS A 6204による試験結果

- 試験条件
- スランプ 8cm
- 単位セメント量 (kg/m³)300
- スランプの範囲 (cm)8±1
- 空気量の範囲 (%)基準コンクリート+ (3.0±0.5)

試験結果

項目	AE 減水剤 遅延形 I 種	
	JIS A 6204 規定値	フローリック RG
減水率 (%)	10以上	14
ブリーディング量の比 (%)	70以下	57
凝結の時間の差 (min)	始発	+60~+210
	終結	0~+210
圧縮強度比 (%)	材齢 7 日	110以上
	材齢 28 日	110以上
長さの変化比 (%)	120以下	95
凍結融解に対する抵抗性 (相対動弾性係数%)	60以上	90
塩化物イオン量 (kg/m ³)	0.02以下	0.00
全アルカリ量 (kg/m ³)	0.30以下	0.03

- 使用材料 セメント：普通ポルトランドセメント 3種等量 混合密度 3.16(g/cm³)
- 細骨材：掛川産陸砂 密度 2.59(g/cm³) 吸水率 2.05% FM2.80
- 粗骨材：青梅産碎石 密度 2.67(g/cm³) 吸水率 0.46% FM6.74



取扱い上の注意

- フローリック製品が皮膚に付着した場合には、清水で洗浄して下さい。
- 飲み込んだ場合には、直ちに吐き出し、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 目に入った場合には、清水で洗眼し、医師の診断を受けてください。
- 詳細な内容が必要な場合には、安全データシート (SDS) をご参照下さい。